

## 第2章 本市の状況

### 1 人口構造

- (1) 人口の状況
- (2) 障がい者（障害者手帳所持者）の状況と人口割合の推移
- (3) 地区別の状況

### 2 障がい者の状況

- (1) 身体障がい者（身体障害者手帳所持者）の状況
- (2) 知的障がい者（療育手帳所持者）の状況
- (3) 精神障がい者（精神障害者保健福祉手帳所持者）の状況
- (4) 障がい児の状況
- (5) 障害支援区分認定者の状況

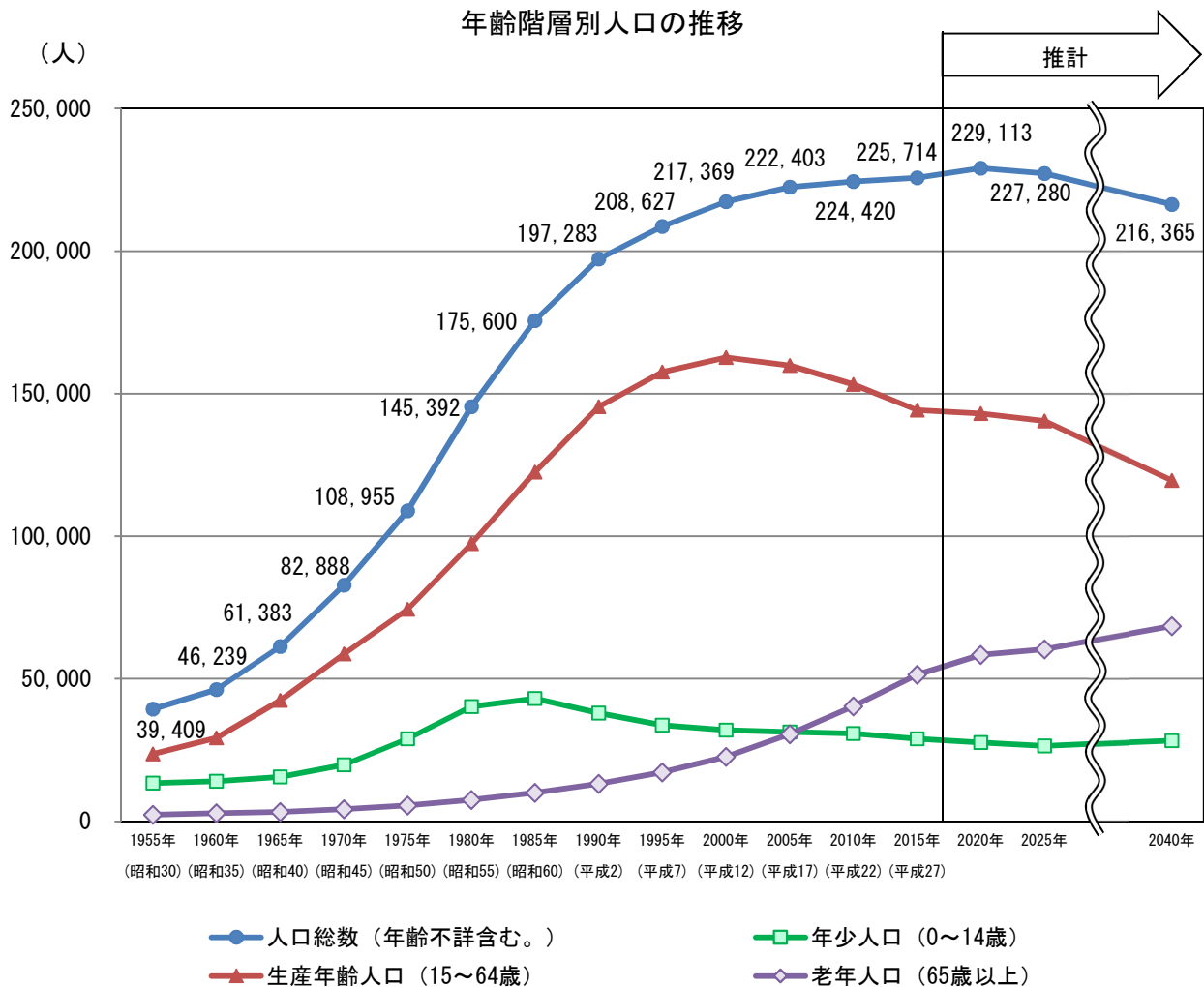


# 1 人口構造

## (1) 人口の状況

人口総数は一貫して増加を続けていますが、増加率は縮小傾向にあり、近年は横ばい又は微増傾向となっています。年少人口（0～14歳）は、昭和60年以降緩やかに減少し、平成17年に老年人口（65歳以上）とほぼ同数となりました。生産年齢人口（15～64歳）は平成12年以降減少に転じていますが、老年人口（65歳以上）は一貫して増加を続けています。

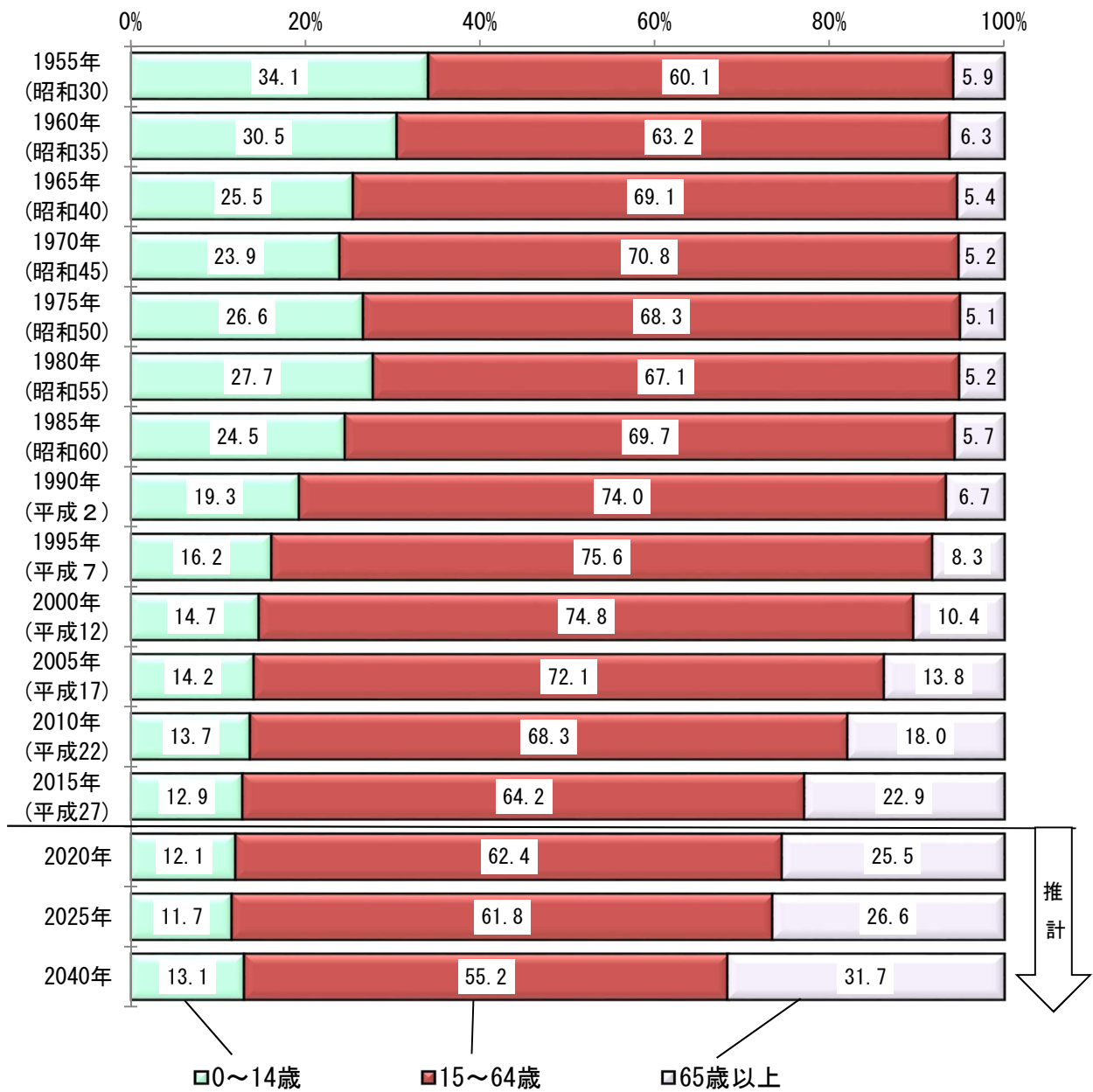
今後については、合計特殊出生率の上昇と20歳代の定住促進・転出抑制に取り組むことにより実現できるとした推計値を本市の人口の将来展望とし、目標人口を定めています。



資料 国勢調査、推計については厚木市人口ビジョンにおける将来展望

※ 各年10月1日現在

年齢構成比率の推移



資料 国勢調査、推計については厚木市人口ビジョンにおける将来展望  
 ※ 各年10月1日現在

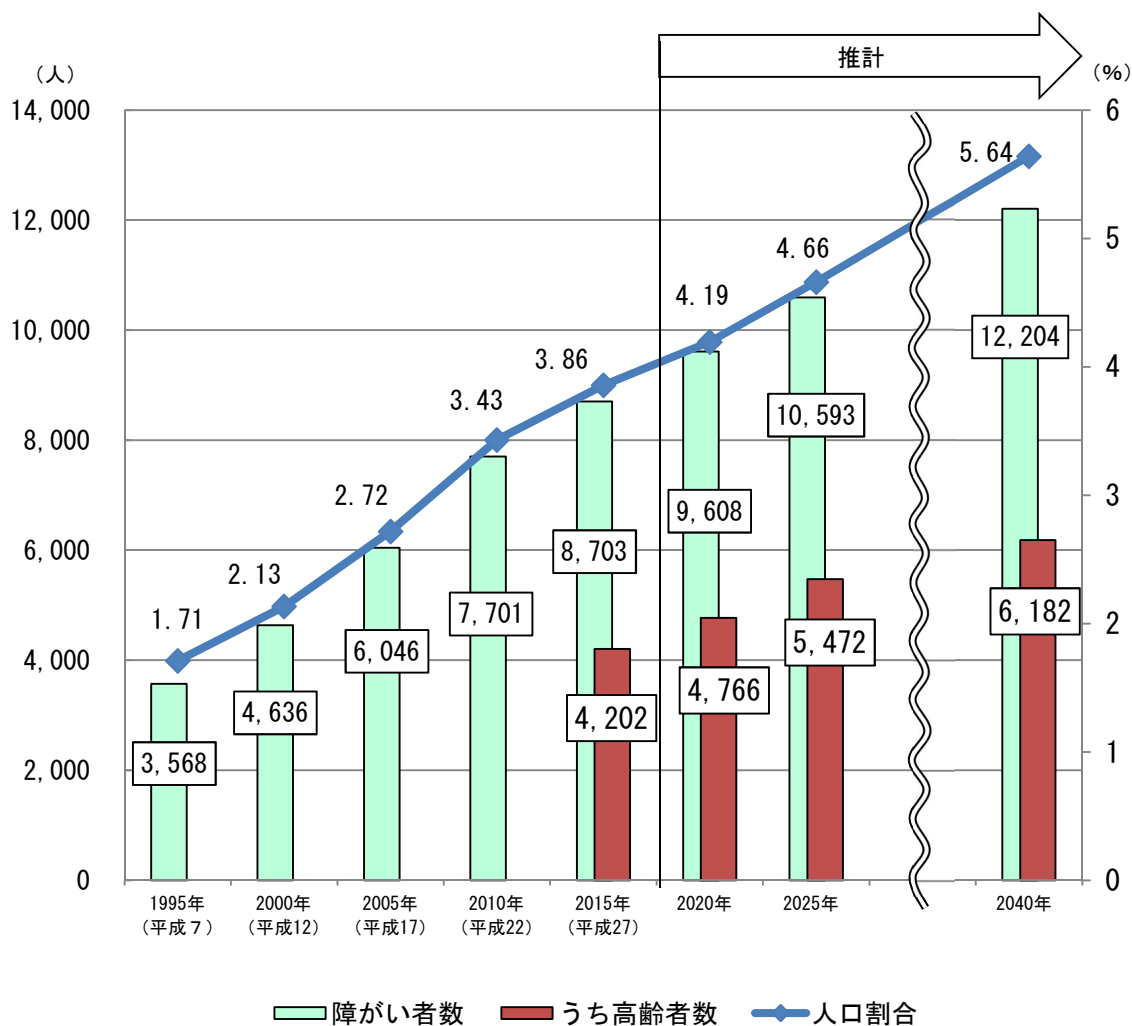
## (2) 障がい者（障害者手帳所持者）の状況と人口割合の推移

### ア 障がい者（障害者手帳所持者）

障がい者は年々増加しており、2025年では、平成7年からの30年間で約3倍になると推計しています。また、障がい者における65歳以上の高齢者の割合は約半数を占め、今後も増加することが見込まれます。

厚木市人口ビジョンにおける将来展望によると、人口は2020年をピークに減少すると推計していますが、障がい者の人口割合は大幅に増加すると見込んでいます。

障がい者（障害者手帳所持者）の状況と人口割合の推移



資料 厚木市障がい者数統計、推計については厚木市人口ビジョンにおける将来展望

※ 各年10月1日現在（平成7年、平成12年は4月1日現在）

※ 障害者手帳は、障がいのある人が取得できる手帳で、一般に身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の総称

※ 障がい者数は、正確な数値を捉えることが不可能なため、それぞれの障害者手帳所持者の合計から重複の人数を除いた数とします。

※ 高齢者数は平成25年度からの統計値

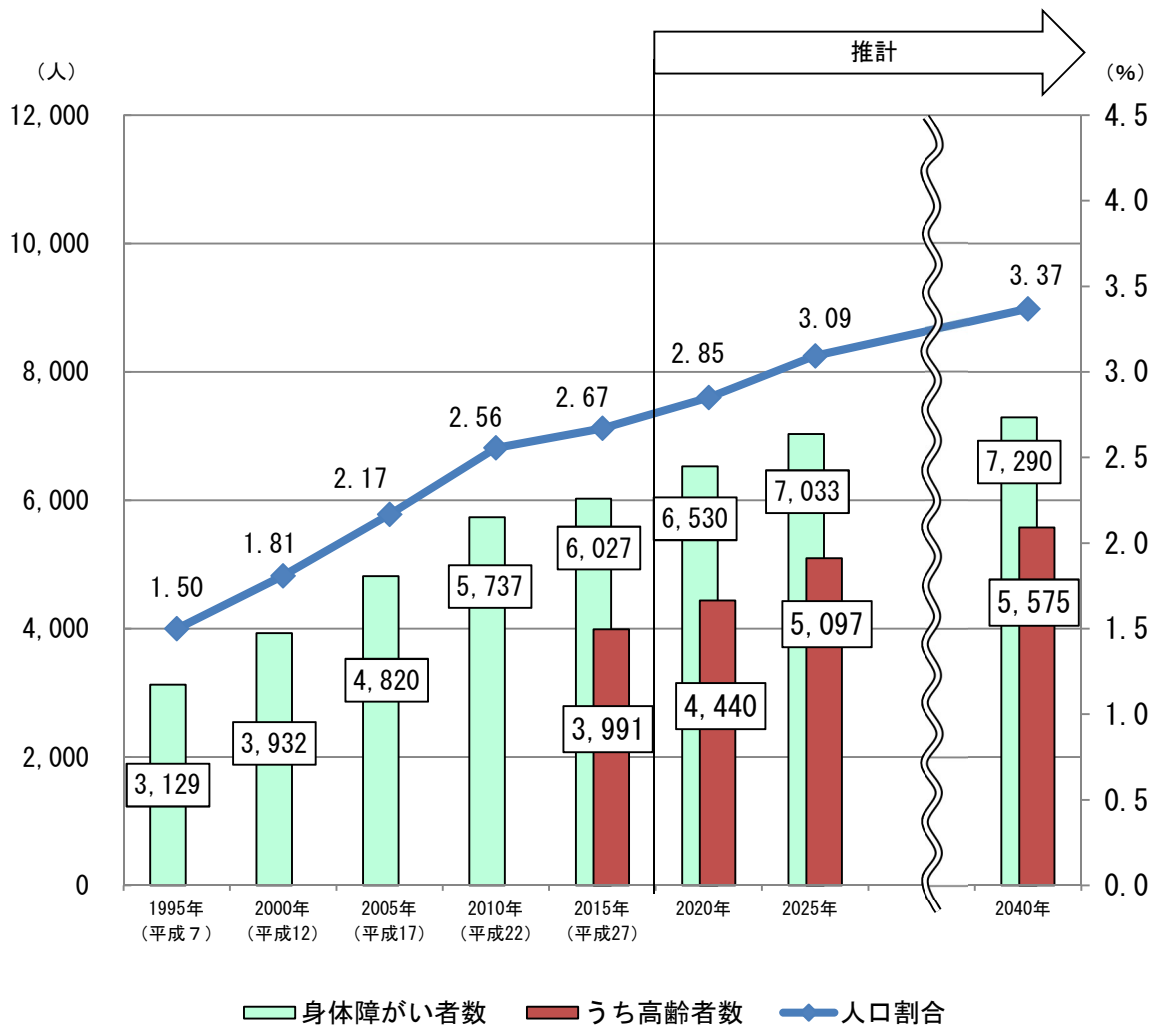
イ 身体障がい者（身体障害者手帳所持者）

身体障がい者及び人口割合は、一貫して増加を続けています。

今後については、身体障がい者が高齢になることに加えて、高齢化に伴う身体機能の低下による身体障がい者が新たに増加すると見込んでいます。

こうした状況から、身体障がい者の人口割合は、大幅に増加すると見込んでいます。

身体障がい者（身体障害者手帳所持者）の状況と人口割合の推移



資料 厚木市障がい者数統計、推計については厚木市人口ビジョンにおける将来展望

※ 各年10月1日現在（平成7年、平成12年は4月1日現在）

※ 身体障がい者数は身体障害者手帳の所持者数（他の障がいとの重複の人数を含む。）

※ 身体障害者手帳は、身体障害者福祉法が定める身体障がいの種類や程度に該当し、その障がいが一定以上持続する場合に所持する手帳

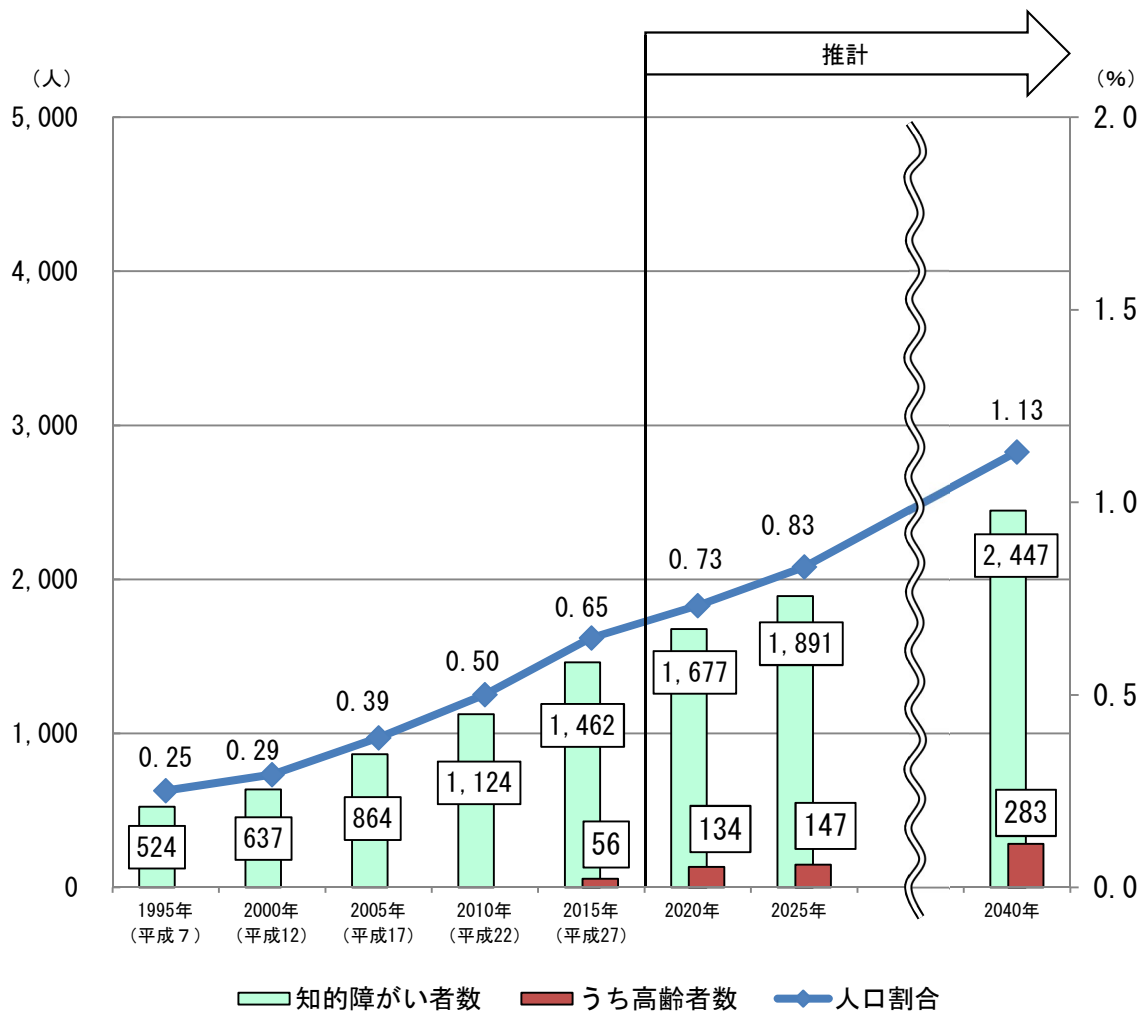
※ 高齢者数は平成25年度からの統計値

ウ 知的障がい者（療育手帳所持者）

知的障がい者及び人口割合は、一貫して増加を続けています。

療育手帳は 20 歳頃までに取得するものですが、中高年世代では取得しなかった人もいることから、現在は若年層を中心に手帳取得者が多くなっている状況です。そうした年齢層が加齢とともに増加しますので、知的障がい者及び人口割合は、増加が続くと見込んでいます。

知的障がい者（療育手帳所持者）の状況と人口割合の推移



資料 厚木市障がい者数統計、推計については厚木市人口ビジョンにおける将来展望

※ 各年 10 月 1 日現在（平成 7 年、平成 12 年は 4 月 1 日現在）

※ 知的障がい者数は療育手帳の所持者数（他の障がいとの重複の人数を含む。）

※ 療育手帳は、神奈川県が知的障がいと判定した場合に所持する手帳ですが、知的障がいと判定を受けた方が必ずしも手帳を取得するとは限りません。

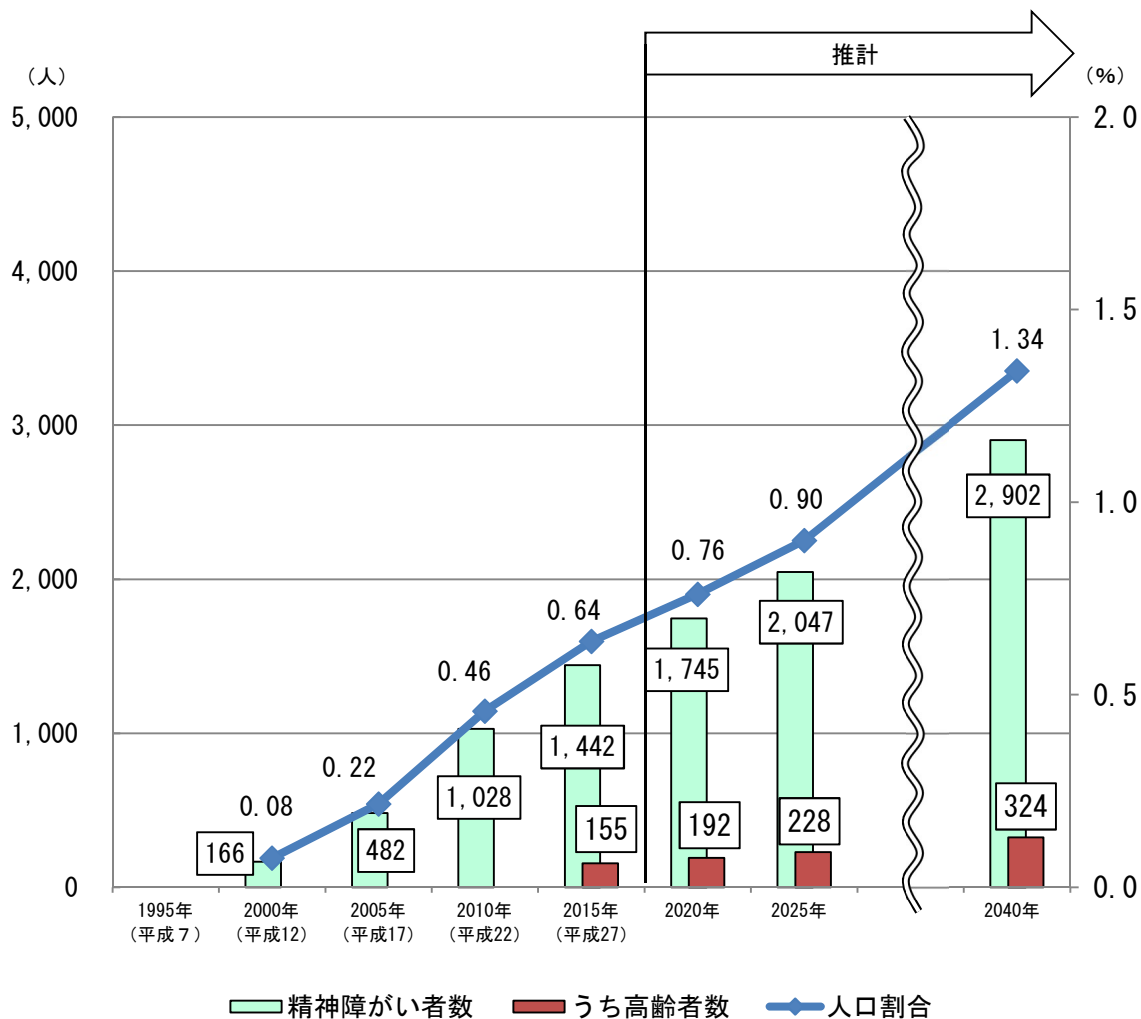
※ 高齢者数は平成 25 年度からの統計値

エ 精神障がい者（精神障害者保健福祉手帳所持者）

精神障がい者及び人口割合は、一貫して増加を続けています。

精神障害者保健福祉手帳は、精神疾患のため生活に支障がある場合に所持するものであり、精神疾患に罹患している人は手帳の所持者以上に存在していると思われます。今後は、地域包括ケア社会の実現に向けた取組により、これまで支援につながらなかった人が障害福祉サービスを利用することが想定されるため、精神障がい者及び人口割合は増加が続くと見込んでいます。

精神障がい者（精神障害者保健福祉手帳所持者）の状況と人口割合の推移



資料 厚木市障がい者数統計、推計については厚木市人口ビジョンにおける将来展望

※ 各年10月1日現在（平成7年、平成12年は4月1日現在）

※ 精神障がい者数は精神障害者保健福祉手帳の所持者数（他の障がいとの重複の人数を含む。）

※ 精神障害者保健福祉手帳は、精神保健福祉法に基づき、精神疾患のため生活に支障がある場合に所持する手帳ですが、精神疾患に罹患している方が必ずしも手帳を取得するとは限りません。

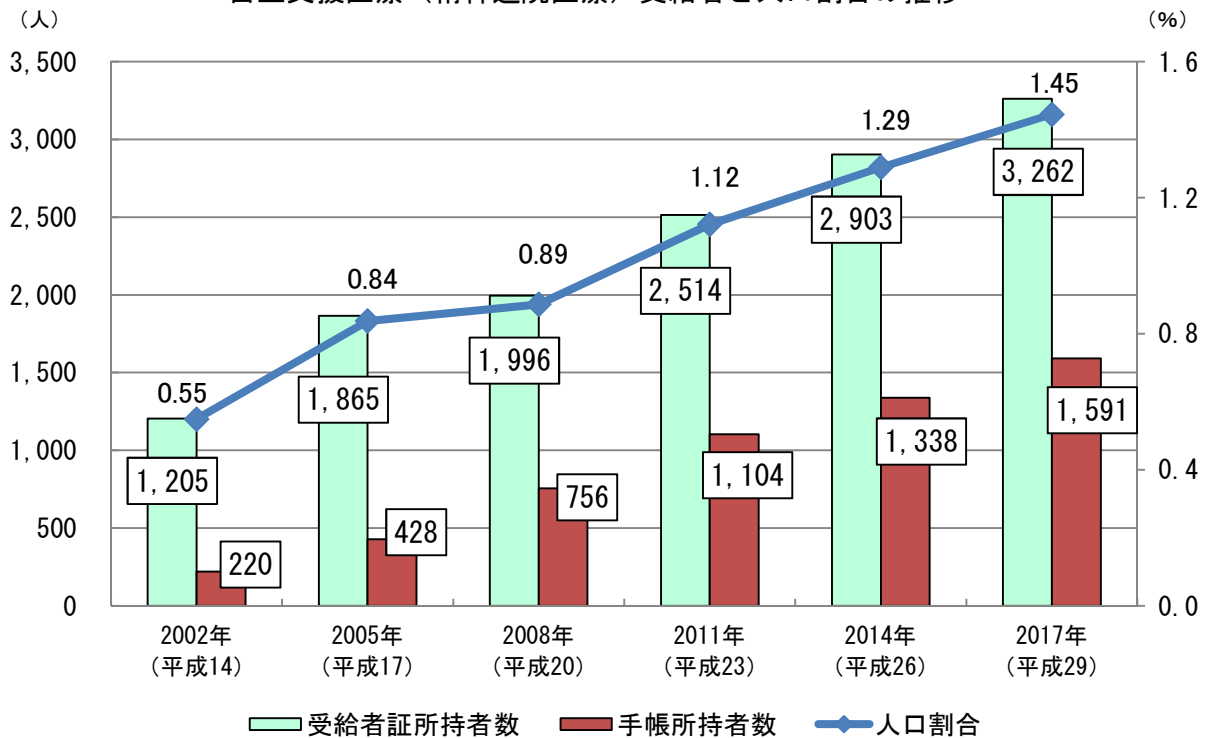
※ 高齢者数は平成25年度からの統計値



### オ 精神障がい者（自立支援医療（精神通院医療）受給者）

自立支援医療（精神通院医療）は、精神疾患を有する方が、通院による精神医療を継続的に必要とする場合に受けられる制度です。自立支援医療（精神通院医療）受給者及び人口割合は、一貫して増加を続けています。平成29年の精神障害者保健福祉手帳所持者は1,591人となっていますが、自立支援医療（精神通院医療）受給者は3,262人と2倍以上となっています。

自立支援医療（精神通院医療）受給者と人口割合の推移



資料 厚木市障がい者数統計

※ 各年10月1日現在（平成14年、平成17年、平成20年は4月1日現在）

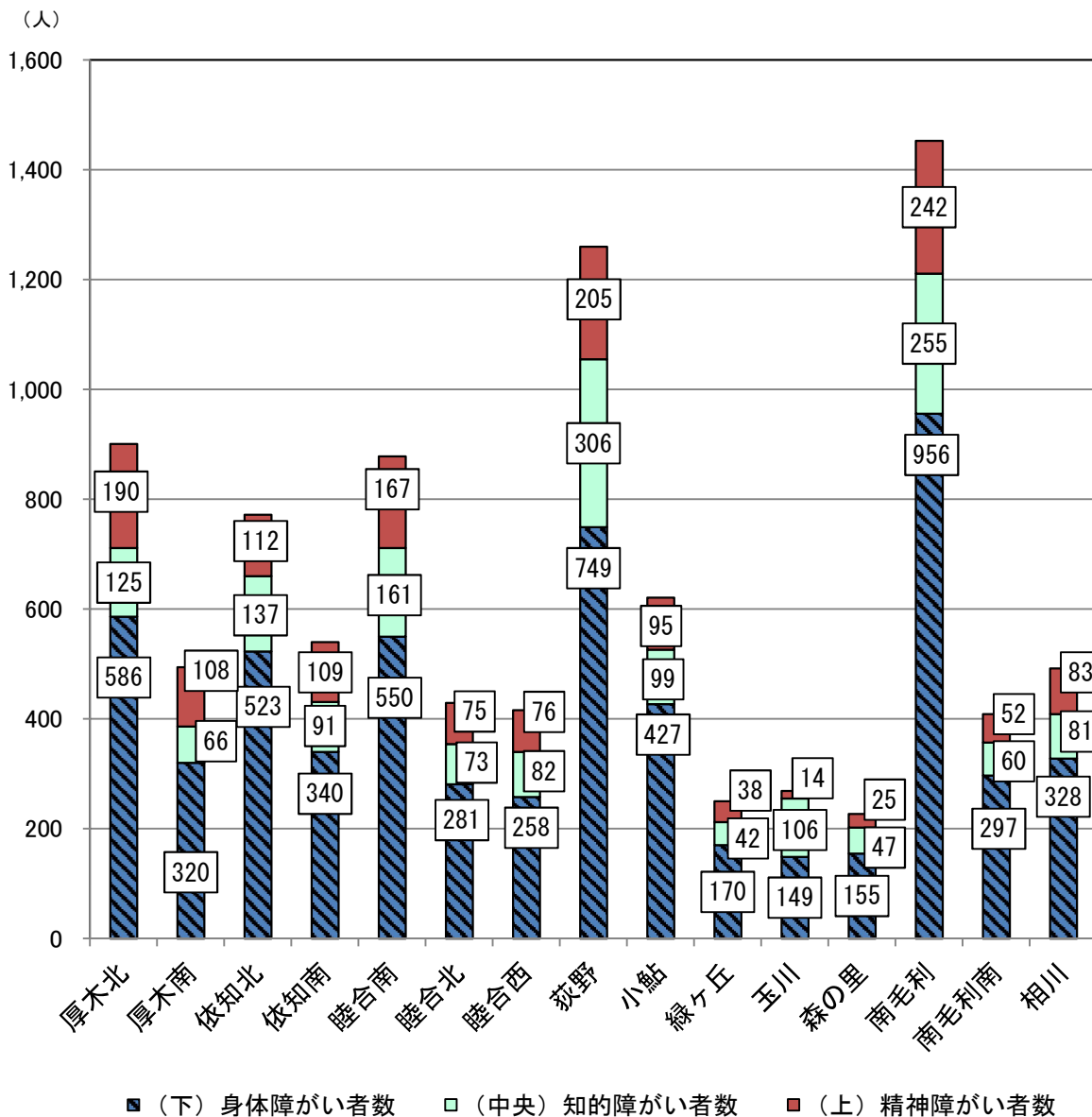
※ 自立支援医療（精神通院医療）は、精神保健福祉法が定める精神疾患の治療のため、通院による医療を継続的に必要とする場合に利用できる公費負担医療制度の一つであり、自立支援医療（精神通院医療）を受けている方が必ずしも手帳を所持しているとは限りません。

### (3) 地区別の状況

#### ア 地区別障がい者（障害者手帳所持者）

障がい者を地区市民センター単位の15地区別にみると、人口が多い南毛利地区や荻野地区で1,000人以上となっています。玉川地区では、知的障がい者数が精神障がい者数を大きく上回っているのに対して、厚木北地区、厚木南地区では、知的障がい者数より精神障がい者数が大きく上回っている状況です。

地区別障がい者（障害者手帳所持者）の状況



資料 厚木市障がい福祉課

※ 平成29年10月1日現在

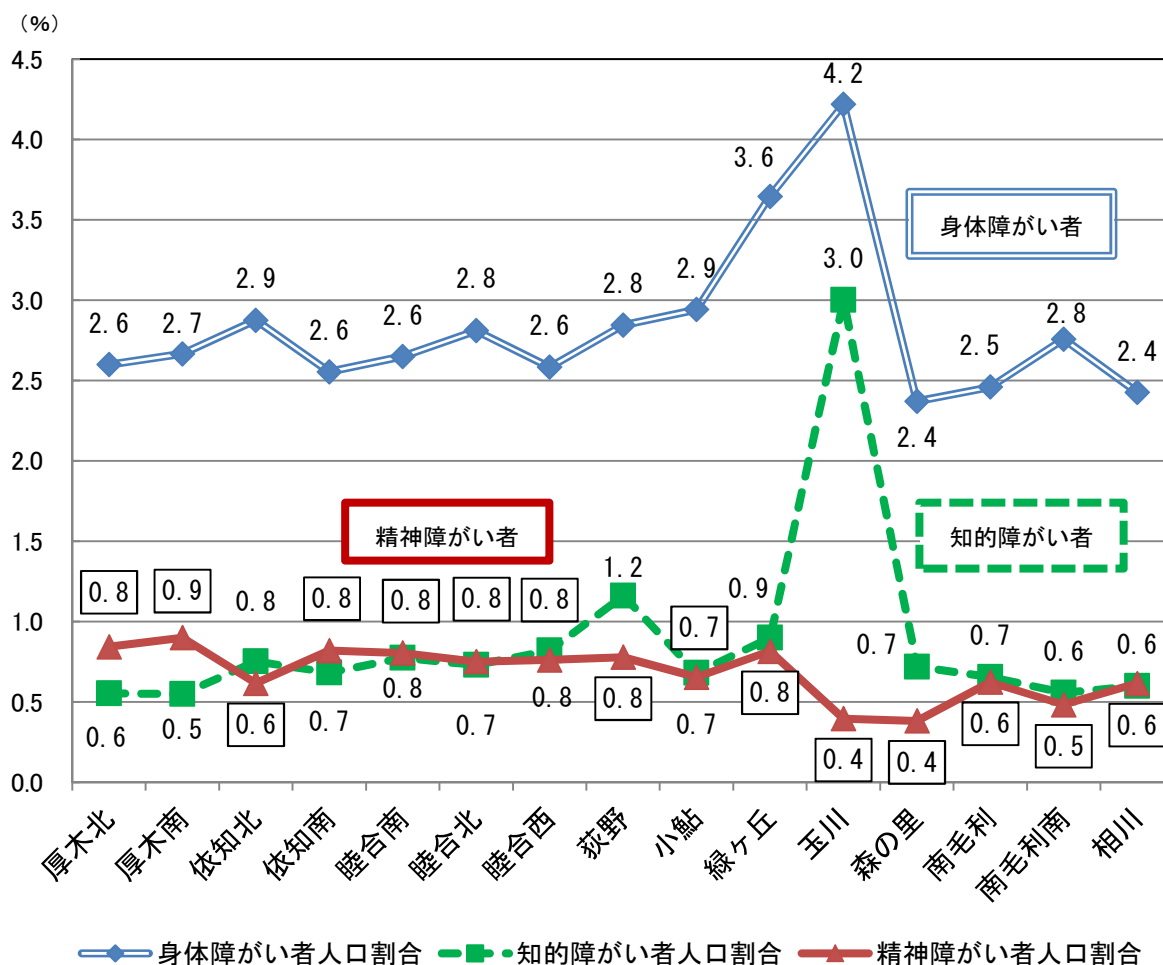
※ 住民基本台帳による数値に基づき作成

※ 障がい者数は、身体障害者手帳、療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳の所持者数（他の障がいとの重複の人数を含む。）

障がい者人口割合を地区市民センター単位の15地区別にみると、玉川地区や緑ヶ丘地区の身体障がい者人口割合が特に高くなっています。身体障がい者人口割合は、高齢化が進行している地区ほど高くなる傾向にあります。

また、玉川地区の知的障がい者人口割合が最も高くなっています。理由としては、人口が少ない地区に障害者支援施設やグループホームが多くあることが考えられます。

地区別障がい者（障害者手帳所持者）人口割合



資料 厚木市障がい福祉課

※ 平成 29 年 10 月 1 日現在

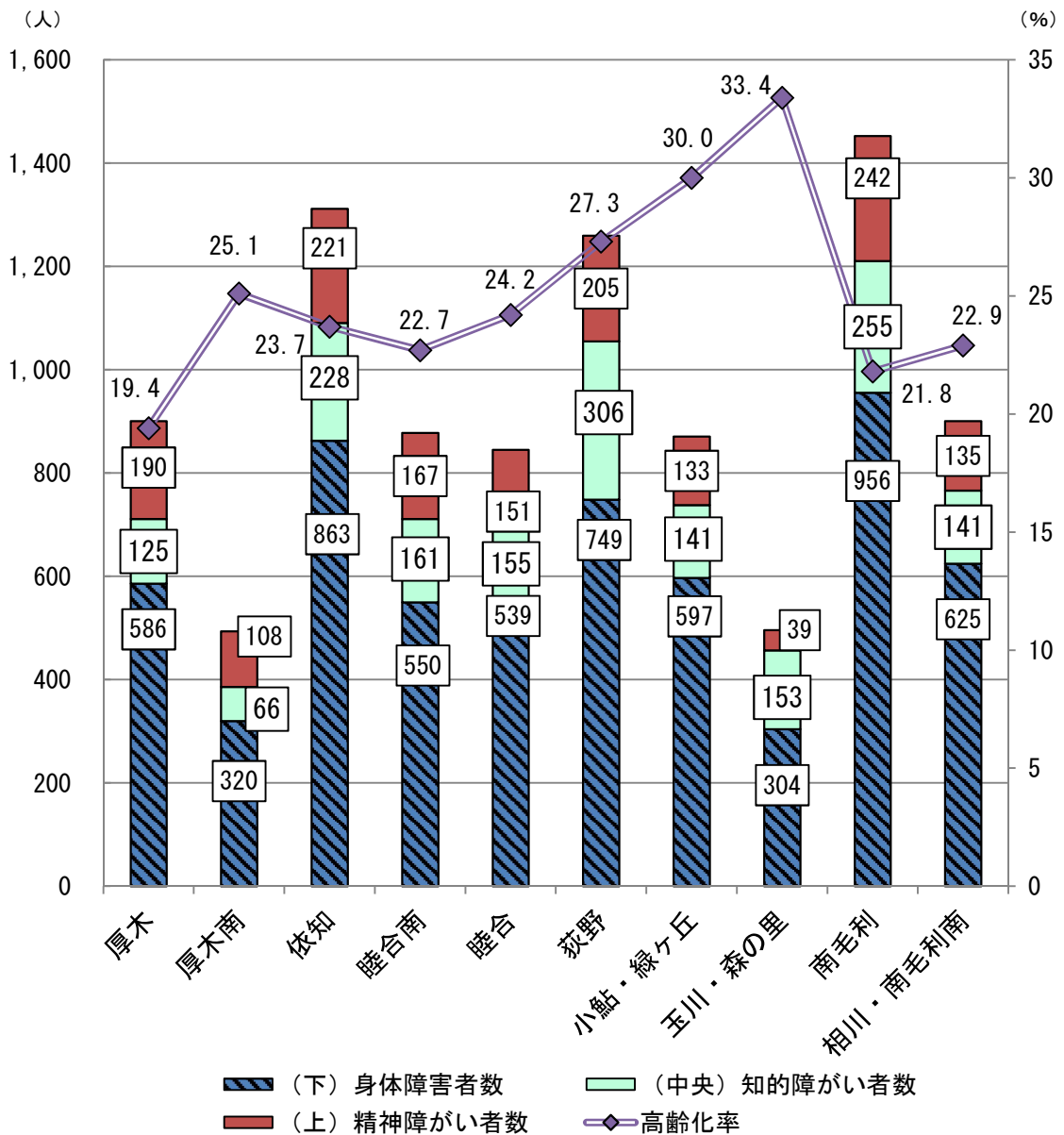
※ 住民基本台帳による数値に基づき作成

※ 障がい者数は、身体障害者手帳、療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳の所持者数（他の障がいとの重複の人数を含む。）

イ 地域包括支援センター区域別障がい者（障害者手帳所持者）

障がい者を地域包括支援センター区域別にみると、高齢化率の高い玉川地区や小鮎・緑ヶ丘地区で、障がい者のうち身体障がい者の占める割合が多くなっています。また、地区市民センター単位の15地区別と比較すると（P26参照）、障がい者のばらつきが少なくなっています。

地域包括支援センター区域別障がい者（障害者手帳所持者）の状況



資料 厚木市障がい福祉課、介護福祉課

※ 平成29年10月1日現在

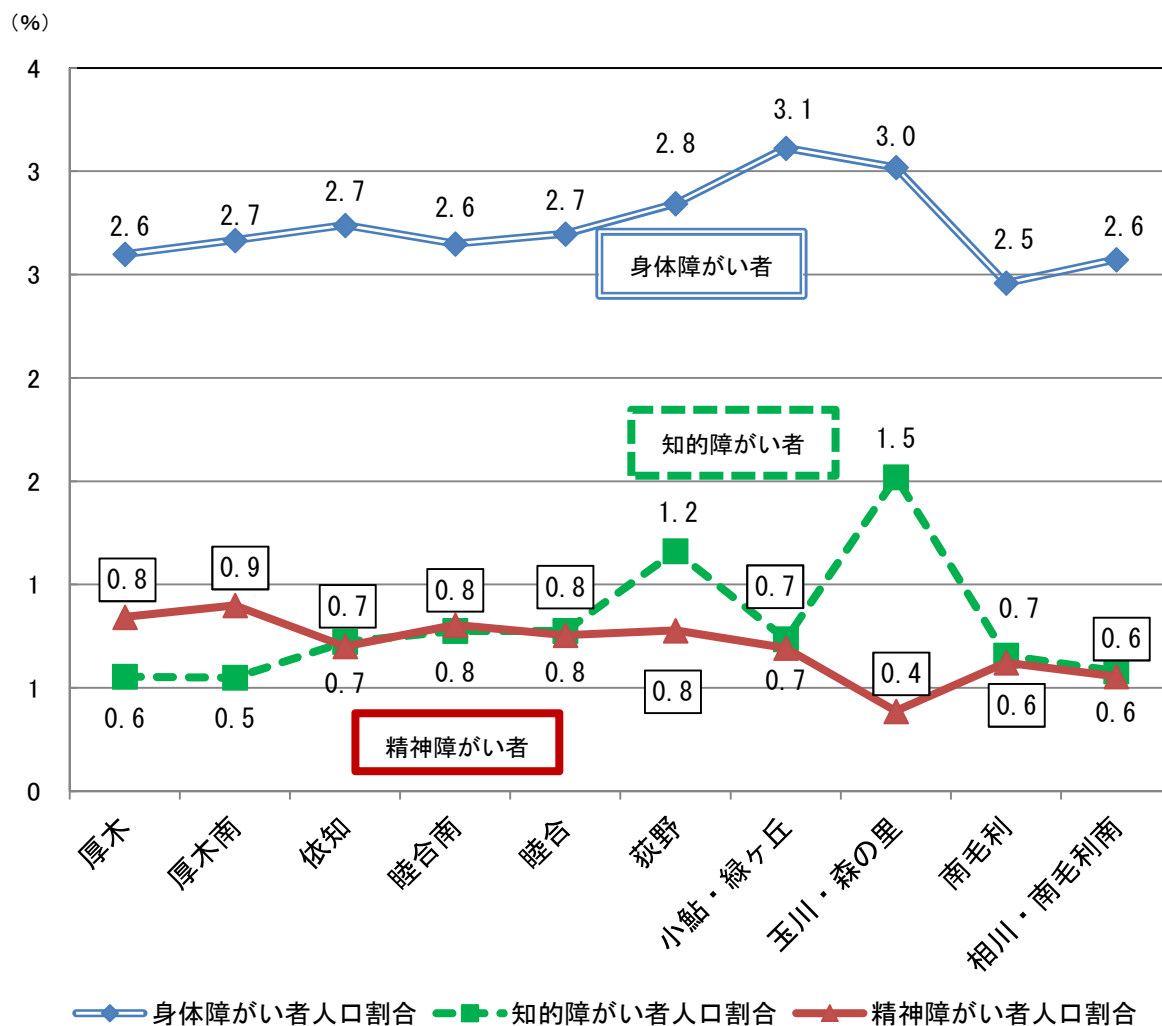
※ 住民基本台帳による数値に基づき作成

※ 障がい者数は、身体障害者手帳、療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳の所持者数（他の障がいとの重複の人数を含む。）

障がい者人口割合を地域包括支援センター区域別にみると、高齢化率の高い玉川地区や小鮎・緑ヶ丘地区では、身体障がい者人口割合が特に高くなっています。

荻野地区や玉川地区では、障害者支援施設やグループホームが地区内に多くあるため、知的障がい者人口割合が特に高くなっています。また、厚木地区や厚木南地区では、精神障がい者人口割合が他の地区と比較すると高い傾向にあります。理由としては、精神病院やメンタルクリニックが地区内に多くあることが考えられます。

地域包括支援センター区域別障がい者（障害者手帳所持者）人口割合



資料 厚木市障がい福祉課、介護福祉課

※ 平成 29 年 10 月 1 日現在

※ 住民基本台帳による数値に基づき作成

※ 障がい者数は、身体障害者手帳、療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳の所持者数（他の障がいとの重複の人数を含む。）

## 2 障がい者の状況

### (1) 身体障がい者（身体障害者手帳所持者）の状況

身体障がい者の状況は、年齢別では「65歳以上」が67.9%、障がい部位別では「肢体不自由」が53.8%、障がい等級別では最重度の「1級」が36.9%と、最も多くなっています。

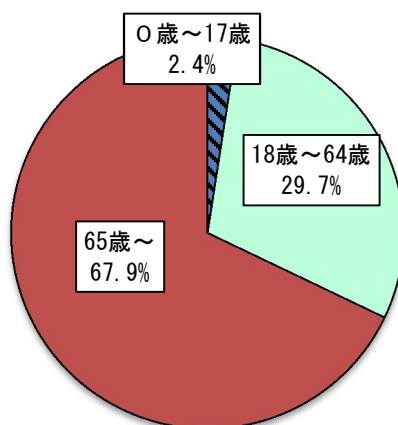
身体障がいの等級は、1級から7級まで7つに分けられていますが、身体障害者手帳の交付は1級から6級までとなっており、7級に該当する障がい者が2つ以上重複する場合には6級となります。

身体障害者手帳所持者の年齢層別内訳

平成29年10月1日現在、単位：人

0歳～17歳	18～64歳	65歳～	合計
149	1,806	4,134	6,089

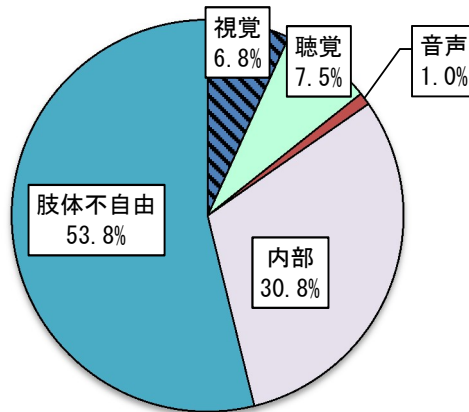
資料 厚木市障がい者数統計、以下の障害者手帳所持者の状況も同様です。



身体障害者手帳所持者の障がい部位別内訳

平成 29 年 10 月 1 日現在、単位：人

視覚障がい	聴覚障がい	音声・言語・ そしゃく障がい	内部障がい	肢体不自由
413	458	63	1,877	3,278

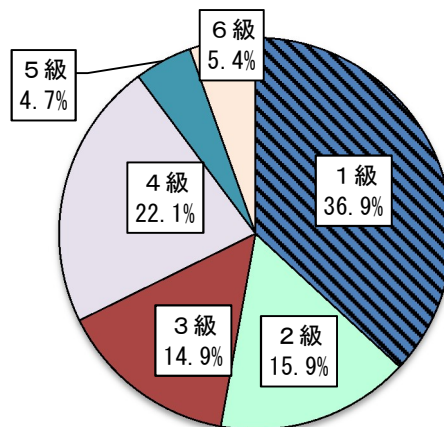


身体障害者手帳所持者の障がい等級別内訳

平成 29 年 10 月 1 日現在、単位：人

1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	合計
2,246	971	905	1,347	289	331	6,089

重度 ←————→ 軽度



※ 比率は小数点以下第二位を四捨五入しているため、合計が 100.0% とならないこともあります。

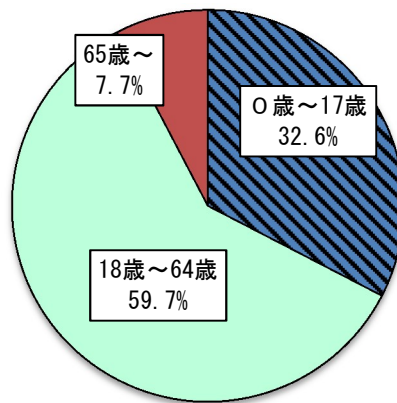
## (2) 知的障がい者（療育手帳所持者）の状況

療育手帳は、知的障がいと判定された方が取得できる手帳です。18歳未満のケースは児童相談所、18歳以上の場合は総合療育相談センターが、知能検査や日常生活動作などを総合的に判断して判定を行います。療育手帳所持者の状況は、年齢別では「18歳から64歳以下」が59.7%、障がい等級別では軽度の「B2」が34.7%と、最も多くなっています。

療育手帳所持者の年齢層別内訳

平成29年10月1日現在、単位：人

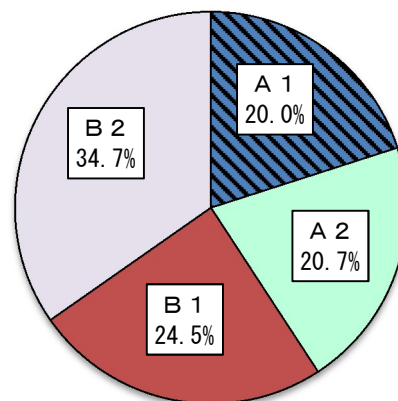
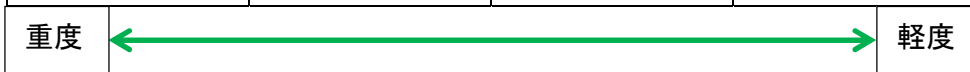
0歳～17歳	18～64歳	65歳～	合計
564	1,034	133	1,731



療育手帳所持者の等級別内訳

平成29年10月1日現在、単位：人

A1	A2	B1	B2	合計
347	359	424	601	1,731



※ 比率は小数点以下第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%とならないこともあります。



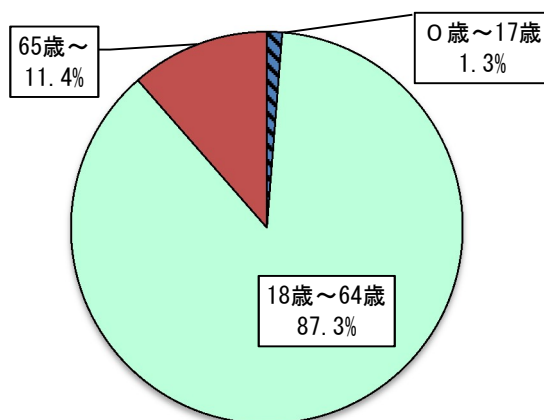
### (3) 精神障がい者（精神障害者保健福祉手帳所持者）の状況

精神障害者保健福祉手帳は、精神疾患と診断された日から6ヶ月以上経過し、その症状の継続によって生活に支障がある場合に取得できる手帳です。精神障害者保健福祉手帳所持者の状況は、年齢別では「18歳から64歳以下」が87.3%、障がい等級別では「2級」が59.8%と、最も多くなっています。

精神障害者保健福祉手帳所持者の年齢層別内訳

平成29年10月1日現在、単位：人

0歳～17歳	18～64歳	65歳～	合計
20	1,389	182	1,591

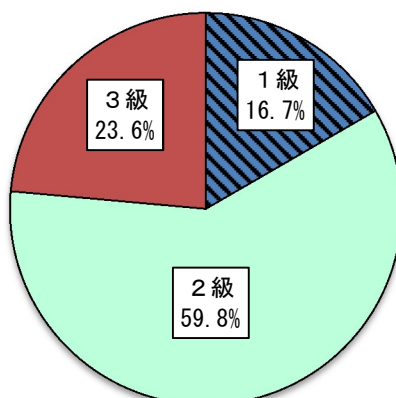


精神障害者保健福祉手帳所持者の等級別内訳

平成29年10月1日現在、単位：人

1級	2級	3級	合計
265	951	375	1,591

← 重度 ←—————→ 軽度



※ 比率は小数点以下第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%とならないこともあります。

### (4) 障がい児の状況

障がい児は、17歳以下の市内人口35,148人のうち965人(2.7%)となっています。障がい種別にみると知的障がい児が最も多くなっていますが、発達の遅れ等により、障がいの手帳を取得しないで児童通所支援を利用している人もいます。

障がい児に対する義務教育は、小・中学校、特別支援学校があります。特別支援学校は障がいのある児童・生徒を教育する学校で、それぞれの障がいの状況に応じたきめ細かな教育を行います。本市の特別支援学校在籍者数は、高等部を中心に伊勢原養護学校が最も多くなっています。

本市では、市立小学校に通学する児童11,802人のうち、特別支援学級に在籍する児童数は350人です。市立中学校では、生徒数5,914人のうち、137人が特別支援学級に通学しています。

特別支援学級は、市立各小・中学校において、少人数の学級編成のもと、個々に応じた指導を行い、地域社会に適応し社会的自立ができるよう児童・生徒の教育的ニーズに合った教育を行う学級です。

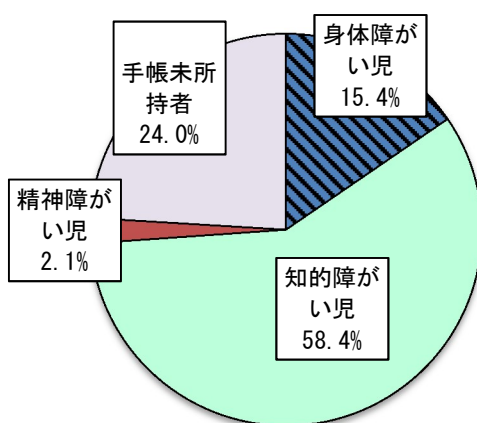
学級種別にみると、「知的障がい」が最も多く、全ての小・中学校で設置しています。次いで「自閉症・情緒障がい」が多く、全ての小学校と11の中学校で設置しています。

障がい児の状況

平成29年10月1日現在、単位：人

身体障がい児	知的障がい児	精神障がい児	児童通所支援支給決定者のうち手帳未所持者	合計
149	564	20	232	965

資料 厚木市障がい者数統計



※ 障がい児数は、身体障害者手帳、療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳の所持者(他の障がいとの重複の人数を含む。)と児童通所支援支給決定者(手帳未所持者)の合計

※ 比率は小数点以下第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%とならないこともあります。

市内在住者特別支援学校別在籍者数

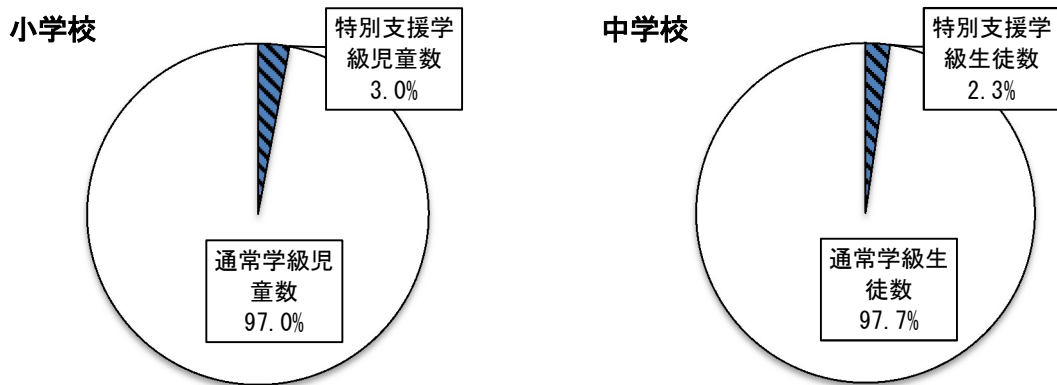
平成 29 年 5 月 1 日現在、単位：人

	小学部	中学部	高等部	合計
えびな支援学校 (肢体不自由・知的障がい)	11	23	23	57
伊勢原養護学校(知的障がい)	6	10	67	83
座間養護学校(肢体不自由) ※ 知的障がいは高等部のみ	17	11	10	38
その他	7	1	12	20
合計	41	45	112	198

資料 厚木市教育委員会

厚木市立小・中学校特別支援学級在籍者数割合

平成 29 年 5 月 1 日現在



資料 厚木市オープンデータ「小・中学校児童・生徒数・学級数調査一覧」

厚木市立小・中学校特別支援学級設置数

平成 29 年 5 月 1 日現在、単位：学級数

	知的障がい	自閉症情緒障がい	難聴	肢体不自由	病弱	弱視	合計
小学校 (23 校)	35	30	4	7	7	1	84
中学校 (13 校)	18	11	4	3	4	0	40
合計	53	41	8	10	11	1	124

資料 厚木市オープンデータ「厚木市立小・中学校特別支援学級・通級指導教室設置校」

### (5) 障害支援区分認定者の状況

障害支援区分は、障がい者の障がいの多様な特性その他心身の状態に応じて必要とされる標準的な支援の度合いを総合的に示すものです。

障がい種別にみると、知的障がい者の認定者数が最も多く542人で、全体の56.0%を占めています。精神障がい者では、区分2が71.9%と最も多くなっています。

障害支援区分別の認定状況(障がい種別)

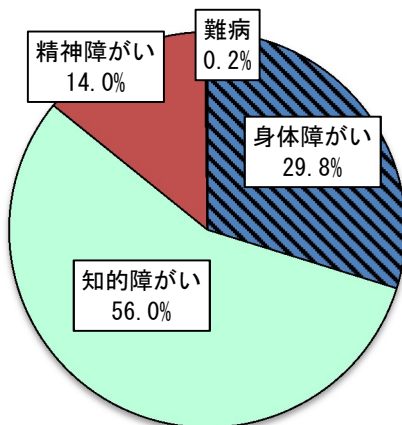
平成29年10月1日現在、単位:人

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
身体障がい者	4	36	61	38	59	90	288
知的障がい者	15	58	76	149	116	128	542
精神障がい者	7	97	21	8	2	0	135
難病	0	0	0	0	1	1	2
合計	26	191	158	195	178	219	967

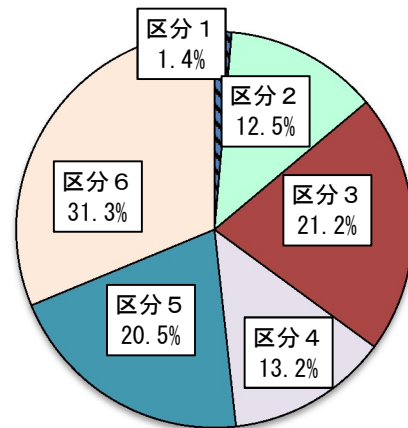
資料 厚木市障がい福祉課



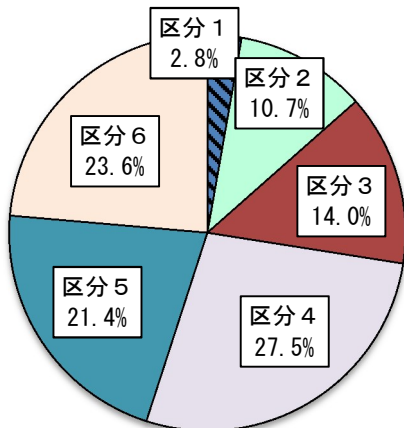
全体の区分構成比(障がい種別)



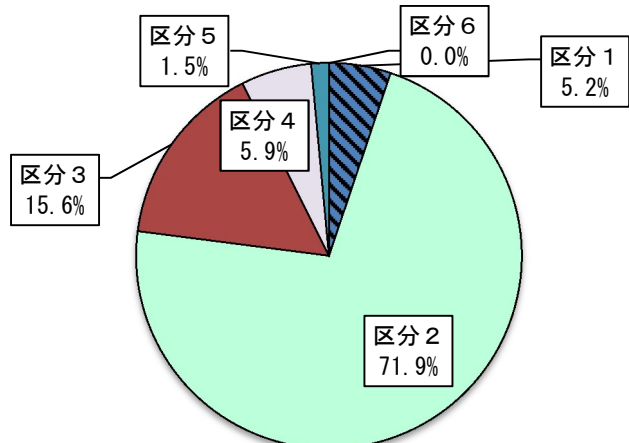
身体障がい者の区分構成比



知的障がい者の区分構成比



精神障がい者の区分構成比



※ 比率は小数点以下第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%とならないこともあります。